

# 雷龍

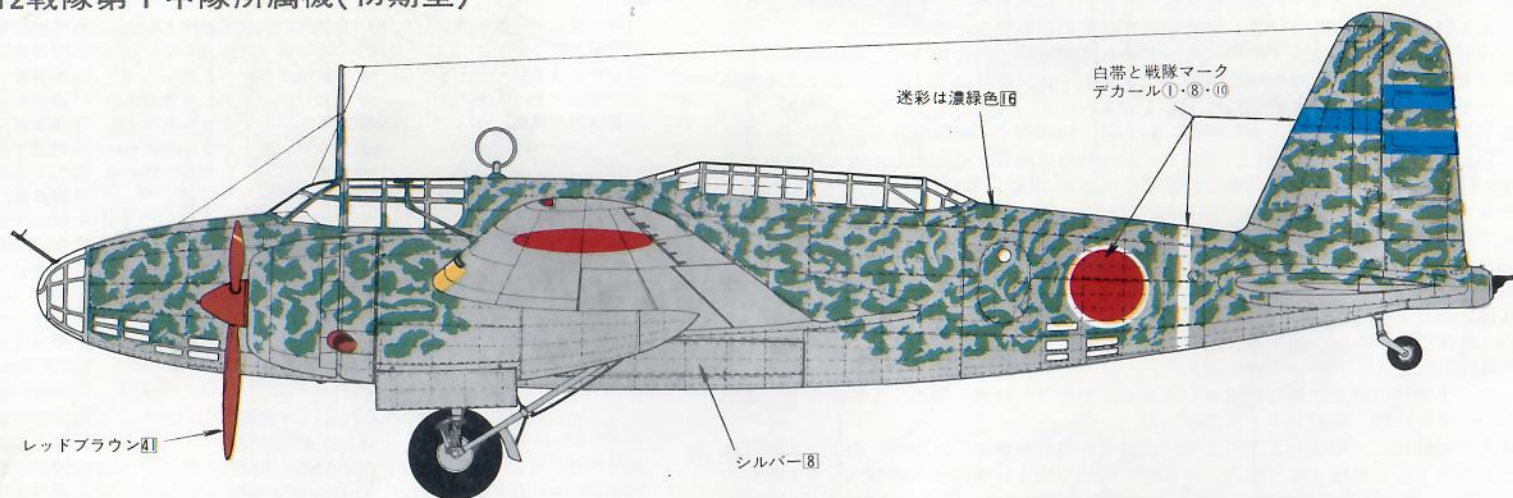
## 三菱97式重爆機〔キ-21 II 初期型/後期型〕



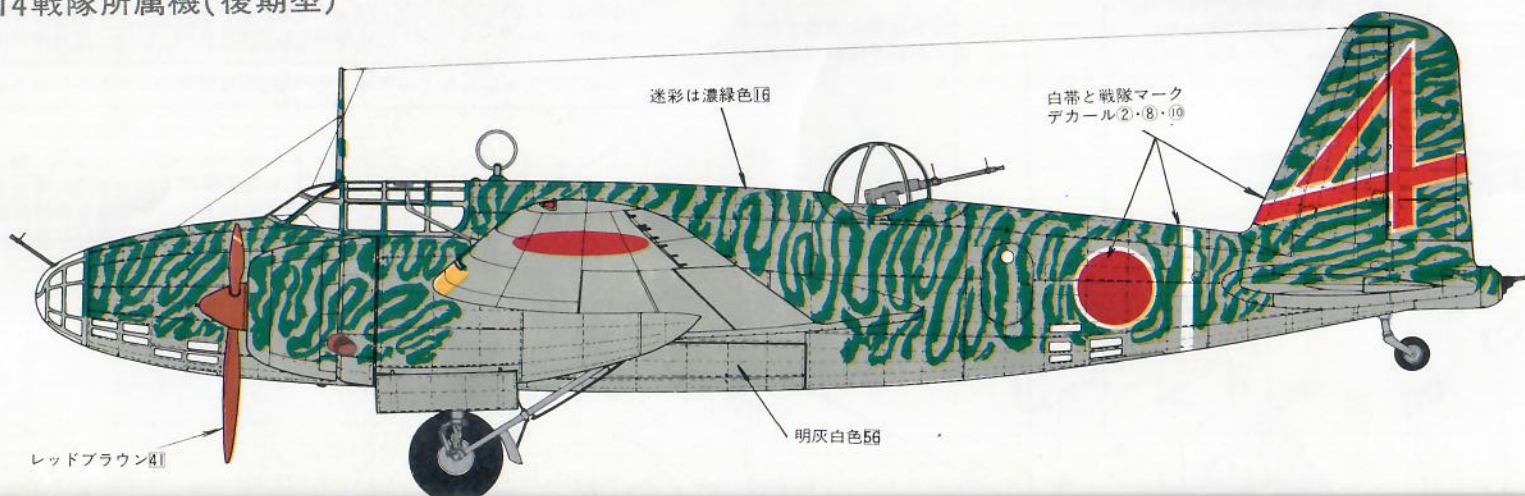
H-169 1/72スケール

“雷龍”は  
97重爆のニックネーム募集で最優秀賞に選ばれたものです。これは制式呼称  
ではありませんが97重爆機“雷龍”の名前をご愛用下さい。

### ① 飛行第12戦隊第1中隊所属機(初期型)

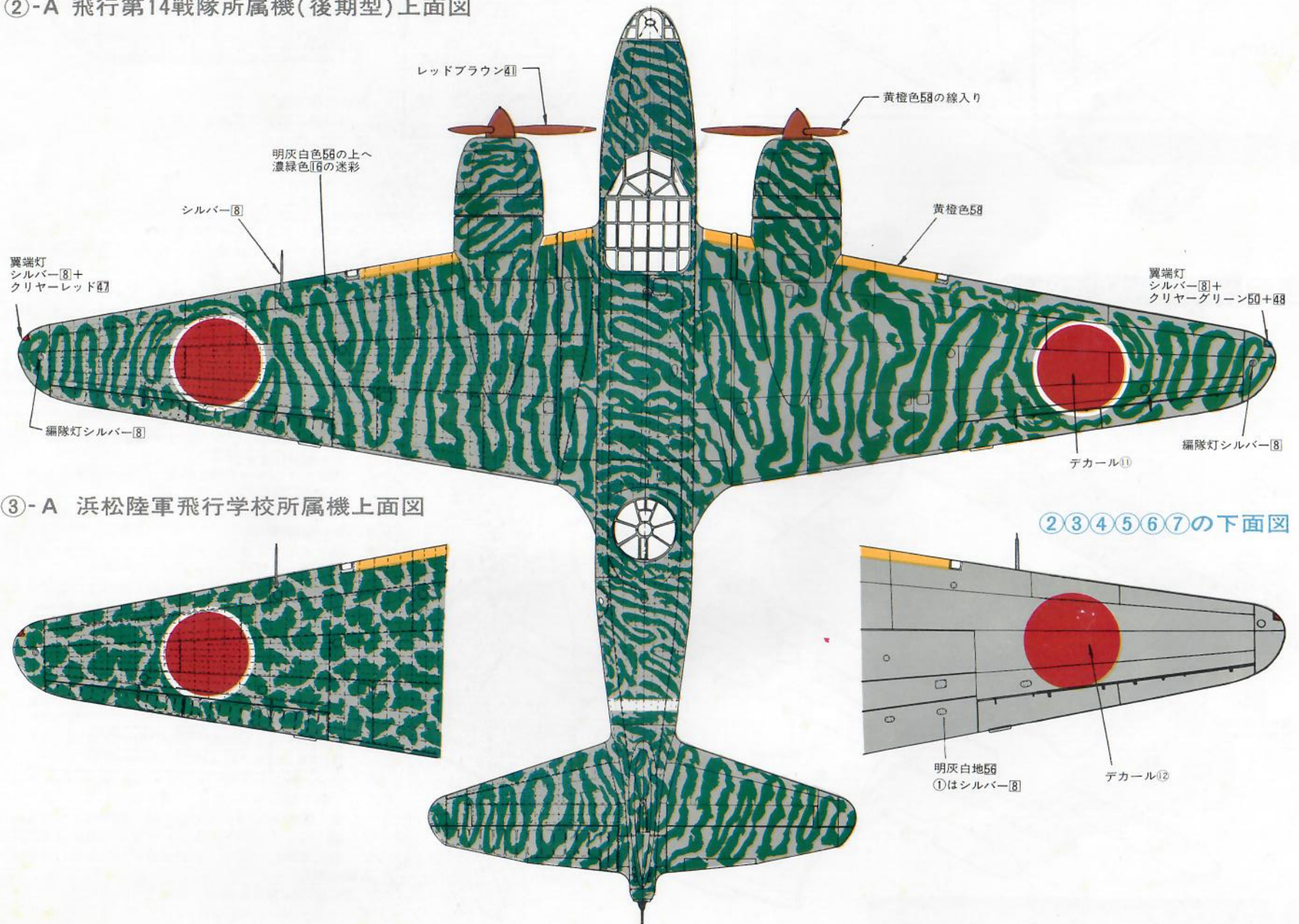


### ② 飛行第14戦隊所属機(後期型)

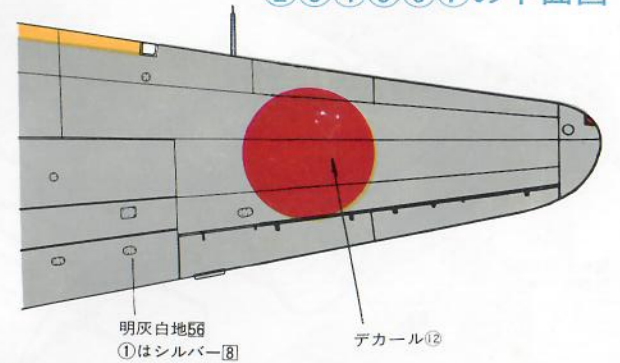
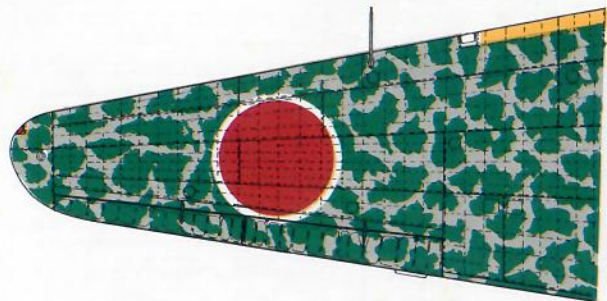




②-A 飛行第14戦隊所属機(後期型)上面図

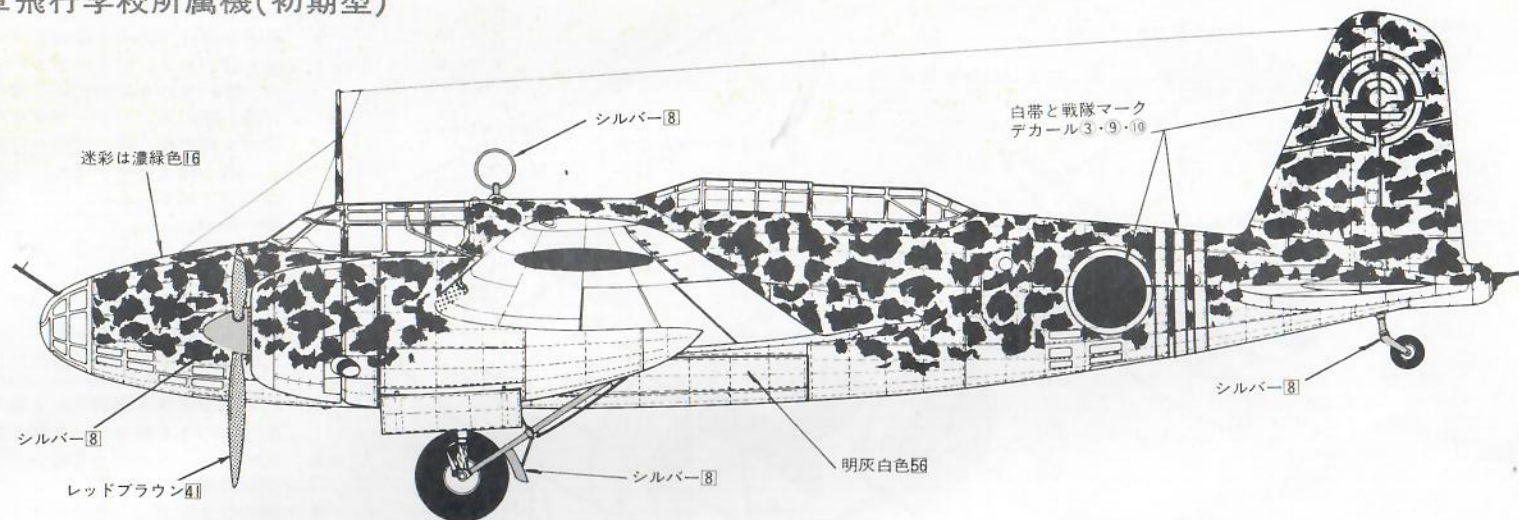


③-A 浜松陸軍飛行学校所属機上面図

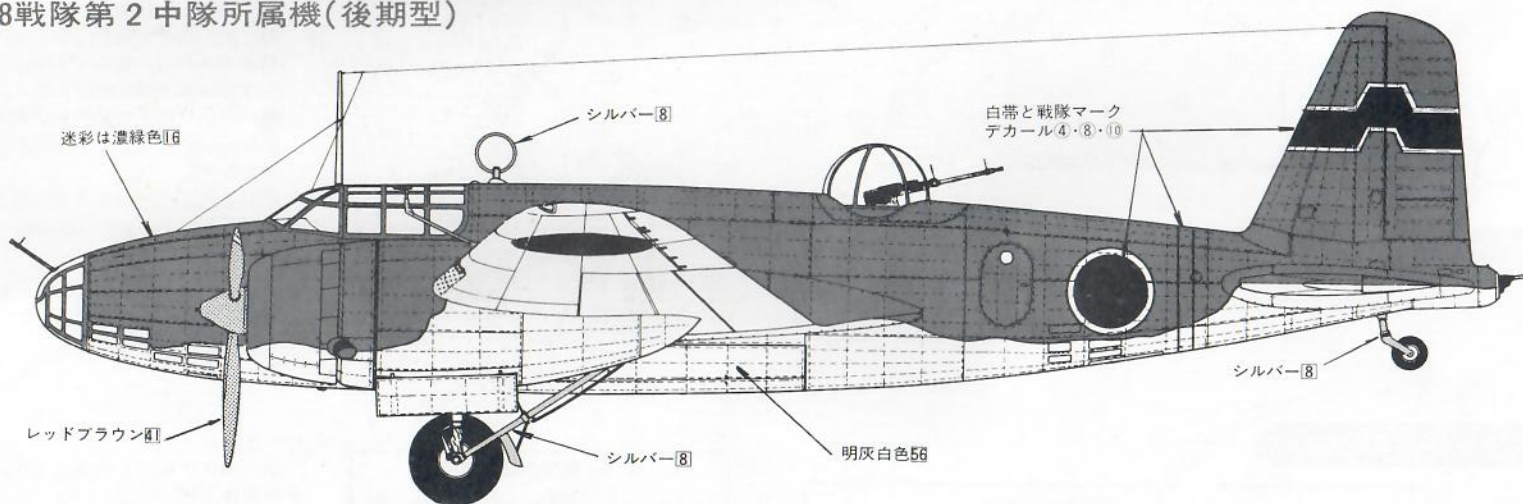




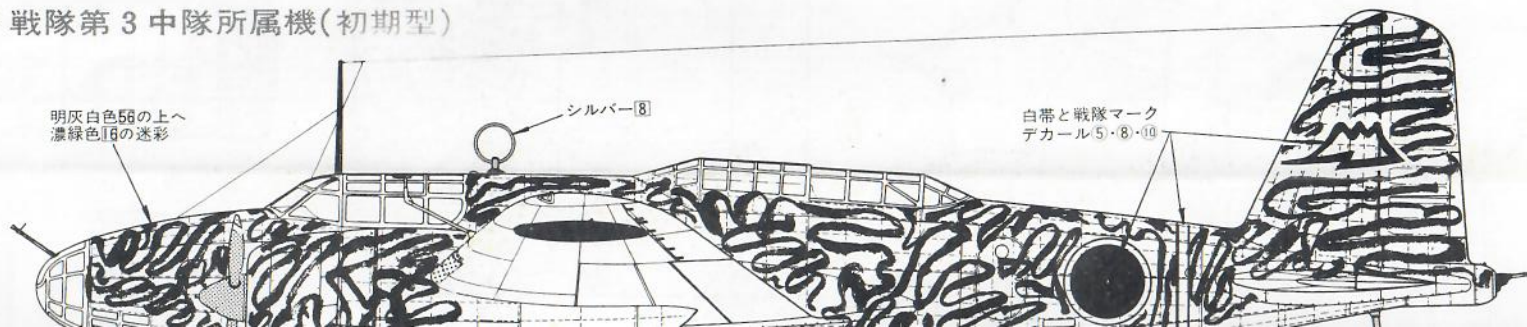
③ 浜松陸軍飛行学校所属機(初期型)



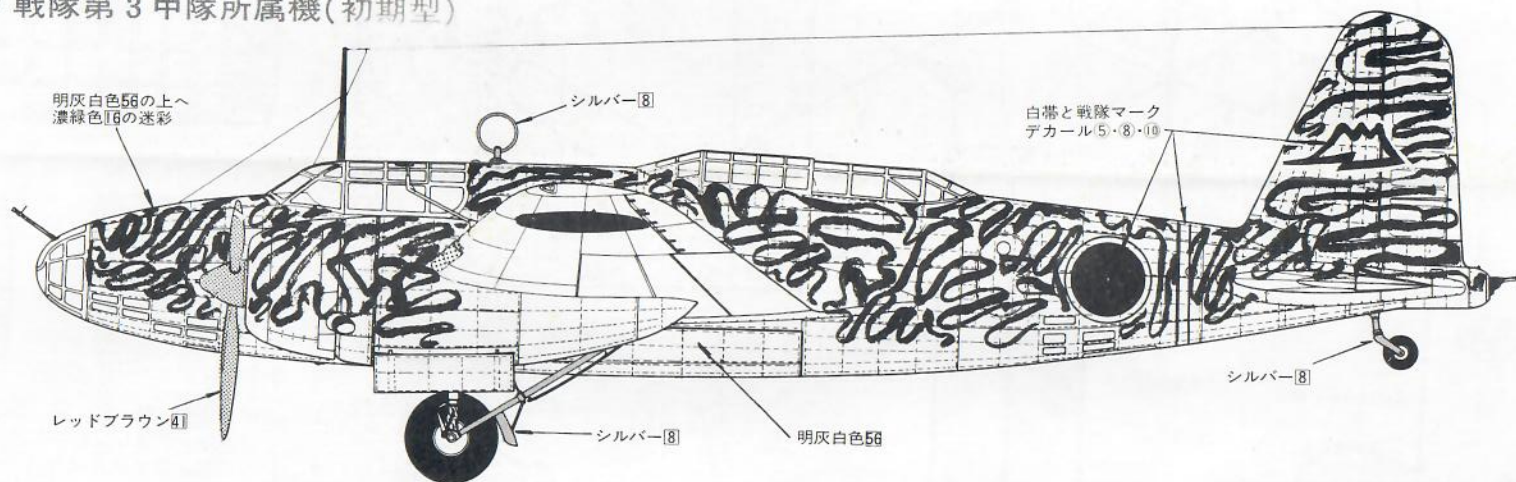
④ 飛行第98戦隊第2中隊所属機(後期型)



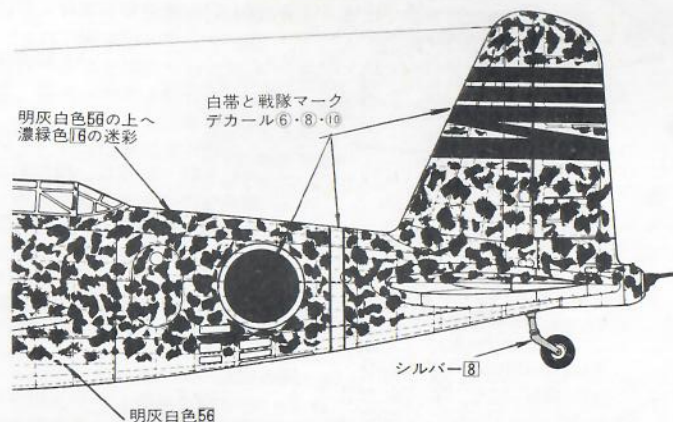
⑤ 飛行第7戦隊第3中隊所属機(初期型)







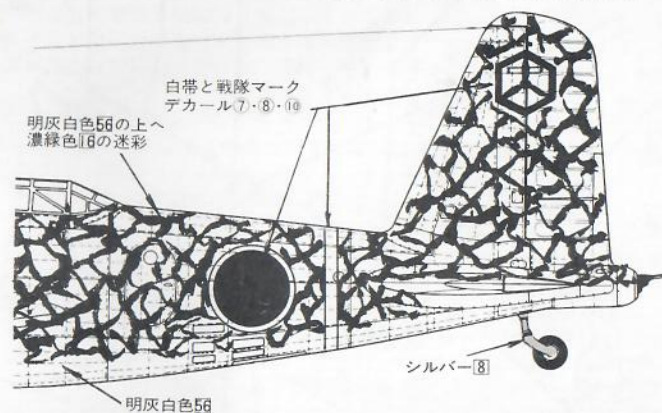
⑥ 第8飛行師団司令部飛行班所属機(初期型)



97重爆各戦隊所属機の塗装について

- ① 塗装は機体の全面がシルバー8で、上面と側面に濃緑色16のメロメロ迷彩がある。  
翼の上面の迷彩は胴体と同様のメロメロ迷彩。スピナとプロペラ、主翼前縁の味方識別塗装(黄橙色58)など細部塗装は②-Aと同じ。
- ② 全面が明灰白色56の塗装で、上面と側面に濃緑色の蛇行迷彩のある機体、上面と下面は②-A、②-⑦の下面図のようにになっている。
- ③ 全面が明灰白色56の塗装で、上面と側面に濃緑色16のはん点迷彩があり、スピナはシルバー8、プロペラはレッドブラウン4、翼上面は③-Aのようにになっている。胴体の帯は3本のものを使用。
- ④ この機体は上面と側面が図のように濃緑色16の塗装で、下面は明灰白色56、主翼前縁やスピナ、プロペラ等は②-Aの塗装と同じである。
- ⑤ ②の機体と同様な全面明灰白色56の塗装に濃緑色16の細い蛇行迷彩のある機体、翼の上面の蛇行迷彩は胴体と同様に方向が一定していない迷彩である。主翼前縁やスピナ、プロペラ等は②-Aの塗装と同様である。
- ⑥ ③の機体と同様に全面明灰白色56で、濃緑色16のはん点迷彩機であるが、はん点迷彩がこまかいのが特徴である。翼上面も胴体と同じように、こまかい、はん点迷彩があり、主翼前縁やスピナ、プロペラ等は②-Aと同じ。

⑦ 第1飛行師団司令部飛行班所属機(初期型)



- ⑦ 機体の全面が明灰白色56で図のように濃緑色16の格子状迷彩がある機体。翼上面も胴体と同様な迷彩があり、主翼前縁やスピナ、プロペラ等は②-Aと同じ塗装。

細部の塗装について

機体内部：青竹色57 主脚カバーの内側：青竹色57  
 プロペラ：レッドブラウン4でプロペラ表面の先端に約0.7ミリ幅の細い黄橙色58の線入りで、線からプロペラ先端までの幅も0.7ミリにします。  
 主脚柱、支柱、フェンダー、尾脚：シルバー8  
 機銃：黒鉄色28 排気管：焼鉄色28+41 ループ・アンテナ：シルバー8  
 爆弾：黒鉄色28 主脚柱のブーツ：黒つや消し83  
 タイヤ：黒つや消し83 ヒーター管：シルバー8

戦隊マークについて

第12戦隊は数字の一と二を図案化したもので、第14戦隊は14を複合した図案がマークになっており、浜松陸軍飛行学校のはハマ・ヒの文字が組合わせてある。

飛行第98戦隊は九と八の複合で、第7戦隊は富士山と水のマーク。第8飛行師団機はⅧの数字を図案にしたものであり、第1飛行師団は六角マークの中に一の数字がある。などと日本の各戦隊マークも、このようにして見ると興味深いものである。



## 97重爆(キ-21-II 初期型/後期型)の解説

日本陸軍最初の近代的重爆撃機で、第2次大戦の全期にわたって、つねに第1線機として活躍した有名機である97式重爆撃機は、1型と2型シリーズがあり、日華事変の初期から太平洋戦争の中期にかけて1型が活躍、高速新鋭重爆としてノモンハン事件、中国大陸各地で長距離爆撃に大活躍をしている。

キ21-1(97式重爆)がはじめてそのペールをぬいだのは、在支飛行第62戦隊配属機による昭和14年2月の蘭州爆撃で、以後第60戦隊が在支唯一の97式重爆部隊として全中国大陸をまたにかけ大活躍。昭和14年10月には同隊の36機と海軍航空部隊機との協同出撃で、雲城基地から3日間にわたる蘭州爆撃にあたり、約20機を撃墜し地上重要施設に大損害を与える戦果をあげている。

また重慶や成都など中国奥地への長距離攻撃にも多くの戦果をあげ、36機の大編隊による行動においても1機の落伍もなしという、好性能ぶりにその信頼性をたかめた。

キ21-II(97式重爆2型)は太平洋戦に入ってから活躍をはじめた機体で、第60戦隊の2型は開戦とともにマレー、ビルマ進攻作戦に活躍、シンガポール攻撃では733トンにおよぶ爆弾の雨を、シンガポール陥落までの1週間に投下している。

97式重爆2型で編成された戦隊は飛行第12、60、62、98戦隊で、60戦隊はシンガポール陥落後はフィリピンへ移動して、バターン、コレヒドール攻略に活躍するなど、太平洋戦の中期頃までは大いに活用されたが、以後次第に旧式化してきて、敵機に撃墜されることが多くなり、後継機である「呑龍」や「飛龍」へのバトンタッチが、いそがれたが「呑龍」は発動機の不調と馬力不足等のトラブルで配属のピッチが上らず、「飛龍」も生産が間に合わないなどと、結局、第2次大戦の全期にわたり、つねに第1線重爆機として奮戦した。

キ21の試作機1号機は昭和11年12月に完成、生産型とは異って機首は角ばった形の銃座をもち、胴体後部に銃座のある、くびれた胴体後部を持つ機体で、同時に試作された中鳥の新重爆と共にキ19と呼ばれていたが、増加試作機からキ21と改訂、この増加試作機は昭和12年11月に第1号機が完成している。

生産機キ21-1甲から97式重爆おなじみのスタイルとなり、以後1型乙、1型丙などが生産され、つづいて2型初期、後期型へと改良された。

1型乙は1型甲に対して尾部へ2型のように遠隔操作機銃を新設した型で、丙型は主翼外翼の後退角を3度多くして操縦安定を改良。主車輪の直径を太くし爆弾倉内燃料タンクを新設するなどの改良機で、更に2型は発動機を換装した性能向上型でカウリングが大型のものとなり、主車輪も完全引込式のスマートなものになっているほか、側面銃が左右に1挺ずつ装備されるなど武装も強化され、水平尾翼も面積が増大された。

また初期型では1型と同じ上面銃座であったが、後期型には大型の球形銃座が装備されて、それまでの7.7mm×1から13mm×1と武装が更に強化されている。更に後期では排気管を単排気機に改良して速度の向上を計り、コクピットを防弾した機体も生産された。

### データ(キ21-II)

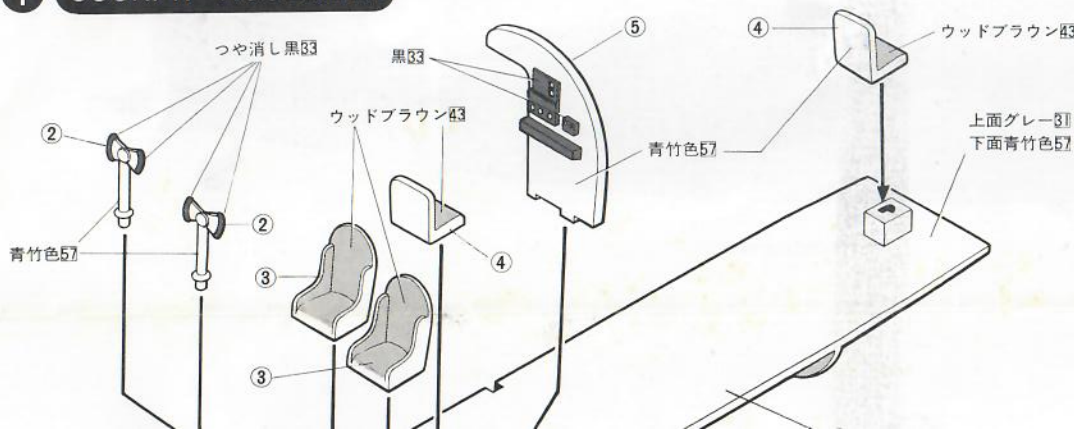
全幅:22.50m、全長:16.018m、全高4.85m、自重:6,070kg、総重量:7,916kg(最大10,610kg)、発動機:三菱ハ101空冷星型14気筒(公称出力1,450馬力)×2基、最大速度:478km/h/高度4,400mにて、巡航速度:380km/h/高度5,500mにて、航続距離:2,400km、実用上昇限度:10,000m、武装:機首7.7mm×1、後上部7.7mm×1(後期13mm×1)、後下方7.7mm×1、側面7.7mm×2、後部7.7mm×1、爆弾750kg、乗員:7名。

お願い このキットのポリ袋は幼児が不用意にかぶったりしないように始末して下さい。

- |                |                   |                    |
|----------------|-------------------|--------------------|
| ① コクピットと機体内デッキ | ②③ 主脚支柱(2ケ)       | ④⑤ 右水平尾翼上半分        |
| ② 操縦かん(2ケ)     | ④ 主車輪フェンダー(2ケ)    | ④⑤ 右水平尾翼下半分        |
| ③ シート(2ケ)      | ④⑤ フェンダー支柱(2ケ)    | ④⑤ 爆弾倉扉(閉)         |
| ④ 小型シート(2ケ)    | ④⑤ 主脚柱カバー(2ケ)     | ④⑤ 爆弾倉(開)右扉        |
| ⑤ 通信器と隔壁       | ④⑤ 右エンジン・ナセル外側半分  | ④⑤ 爆弾倉(開)左扉        |
|                | ④⑤ 右エンジン・ナセル内側半分  | ④⑤ 爆撃照準器           |
|                | ④⑤ 左エンジン・ナセル内側半分  | ④⑤ 機首下面窓(透明)       |
|                | ④⑤ 左エンジン・ナセル外側半分  | ④⑤ 7.7ミリ機関銃        |
|                | ④⑤ 右主車輪カバー外側      | ④⑤ 機首風防            |
| ⑥ 胴体右半分        | ④⑤ 右主車輪カバー内側      | ④⑤ 胴体下面銃座窓(透明)     |
| ⑦ 胴体左半分        | ④⑤ 左主車輪カバー内側      | ④⑤ アンテナ柱           |
| ⑧ 計器盤          | ④⑤ 左主車輪カバー外側      | ④⑤ コクピット・キャノビ(透明)  |
| ⑨ 胴体右側面銃座窓(透明) | ④⑤ プロペラ(2ケ)       | ④⑤ 胴体上部銃座キャノビ(透明)  |
| ⑩ 大型爆弾(4ケ)     | ④⑤ スピナ後部(2ケ)      | ④⑤ 胴体上部銃座内側胴体パネル   |
| ⑪ 小型爆弾(4ケ)     | ④⑤ エンジン・カウリング(2ケ) | ④⑤ 胴体尾部            |
|                |                   | ④⑤ 尾部機銃            |
|                |                   | ④⑤ ビトー管            |
|                |                   | ④⑤ 右ランディング・ライト(透明) |
|                |                   | ④⑤ 左ランディング・ライト(透明) |
|                |                   | ④⑤ 後期型胴体上部銃座胴体パネル  |
|                |                   | ④⑤ 後期型球形銃座取付座      |
|                |                   | ④⑤ 後期型用13ミリ機関砲     |
|                |                   | ④⑤ 後期型球形銃座基部       |
|                |                   | ④⑤ 後期型球形銃座取付リング    |
|                |                   | ④⑤ 後期型球形銃座(透明)     |

組立てのまえにあなたのキットを初期型、後期型のいずれかに作るかを決めて下さい。

## 1 COCKPIT ASSEMBLY



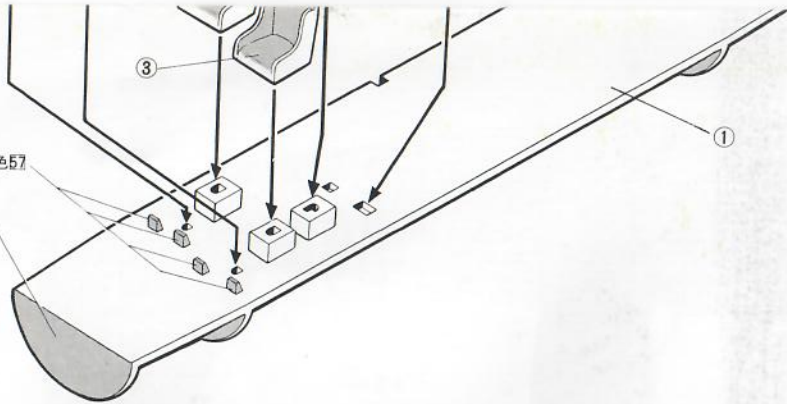
### コクピットの組立

図の指定のように各部分を塗装します。

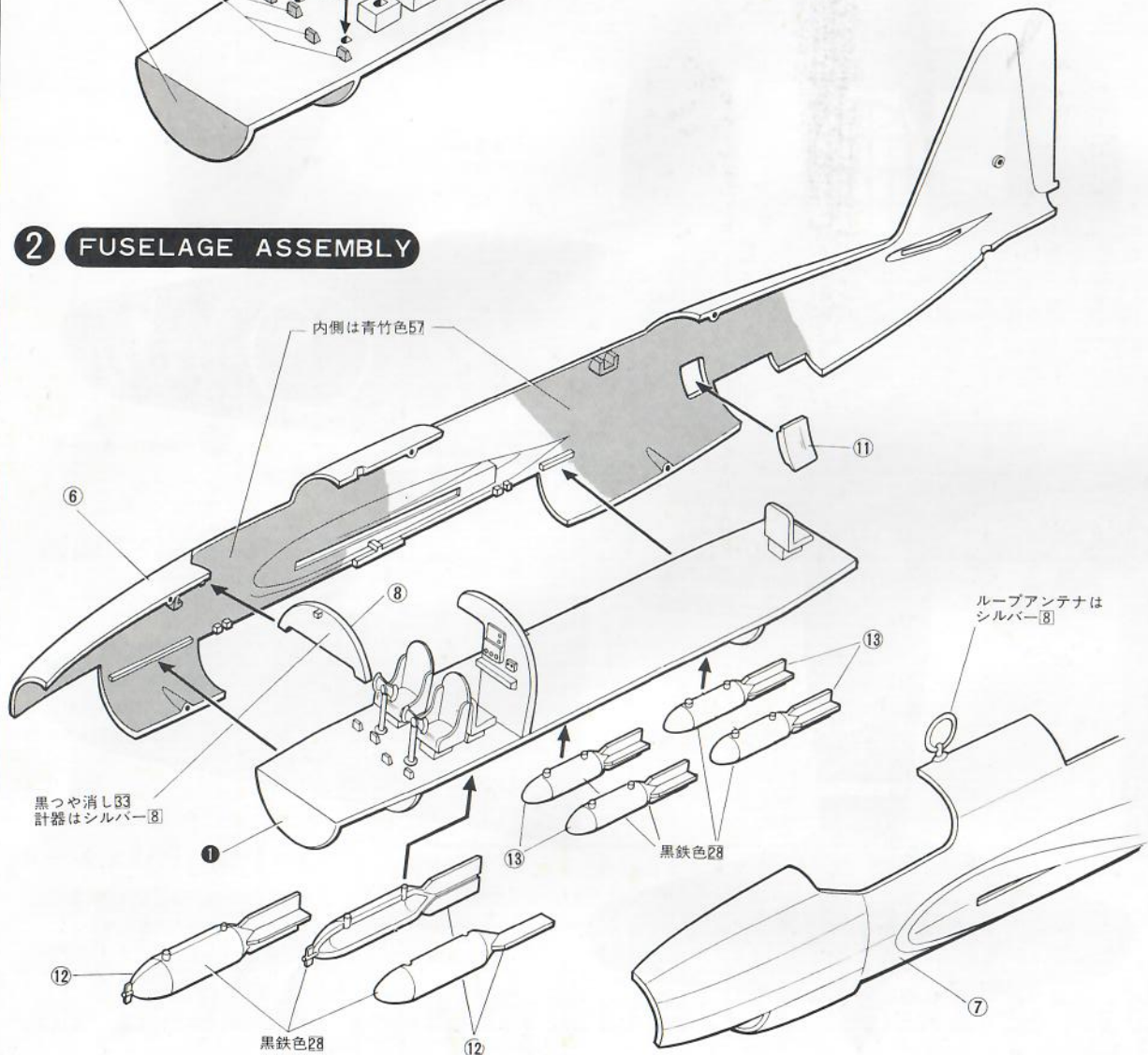
- ①のデッキへ②の操縦かん2個を接着、③のシート2個を矢印の穴へ接着。
- ⑤を①のデッキの穴へ接着。
- ④のシート2個を矢印のように①のデッキへ接着します。



青竹色57



## 2 FUSELAGE ASSEMBLY

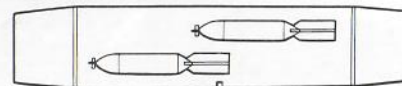


### 胴体の組立

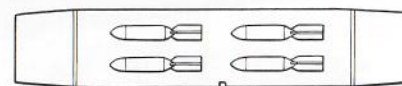
図の指定のように各部分を塗装しておきます。

1. 組立てたコックピット・デッキを図のように⑥の胴体へ接着。
2. ⑧の計器盤と⑪の窓を⑥の胴体へ接着。
3. ⑫左と⑫右を接着して大型爆弾を作り、⑬の小型爆弾4個または、大型爆弾2個を好みによって①のデッキ下面へ接着して下さい。(取付図を参照して下さい。)
4. ⑥と⑦の胴体を接合、①のデッキを⑦の胴体へしっかりと接合します。

A 大型爆弾取付図



B 小型爆弾取付図



## 3 NACELLE AND GEAR ASSEMBLY

青竹色57



### エンジン・ナセルと主脚の組立

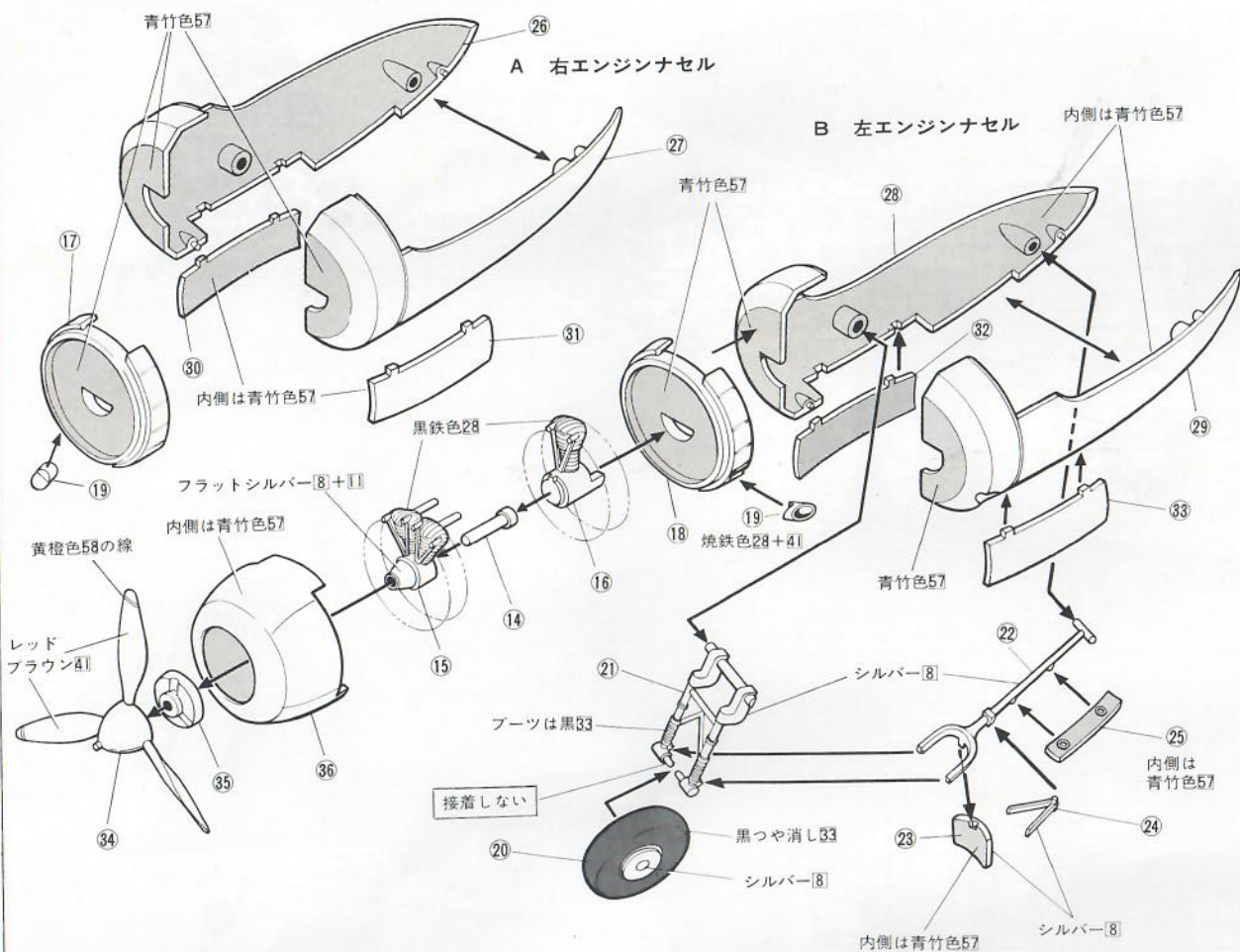
図の指定の部分塗装します。

### 主脚の組立

1. ②⑨の主脚柱へ②⑩の主脚輪をはめ込みます。(接着しない)



### 3 NACELLE AND GEAR ASSEMBLY



#### エンジン・ナセルと主脚の組立

図の指定の部分塗装します。

#### 主脚の組立

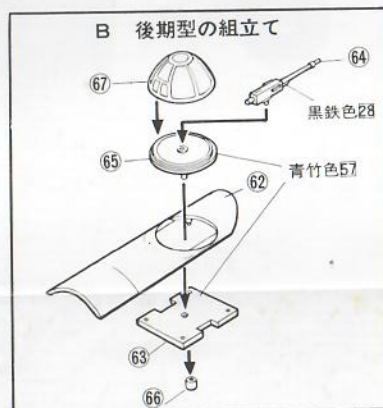
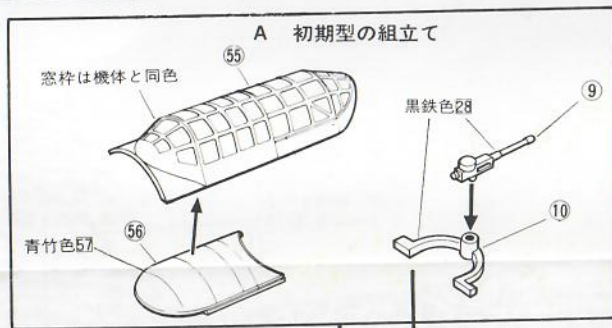
1. ②①の主脚柱へ②①の主車輪をはめ込みます。(接着しない)
2. ②⑧と②⑨のエンジン・ナセルの前穴へ②①の主脚柱を差込み、②②の主脚支柱のピンも②⑧と②⑨の後穴へ差込んでから②⑧と②⑨のエンジン・ナセルを接合。
3. ②②の主脚支柱を②①の矢印の位置へ接着、②⑤を矢印のように②②へ接着します。
4. ②③のフェンダーを②②へ接着、②④の支柱をフェンダーと②②へ接着。
5. ②②の主車輪カバーを②⑧へ接着し、②③は②⑨へ矢印のように接着します。
6. 左主脚と同様に、②①の主車輪を②①の主脚柱へはめ込み、②①の主脚柱と②②の支柱をエンジン・ナセルの穴へ差込んでから②⑥と②⑦を接合。
7. ②③のフェンダーと②④を左主脚と同様に②②へ接着し、②⑩と②⑪の主車輪カバーを②⑥と②⑦へ接着。
8. ②⑤の主脚支柱カバーを②②へ 同様に接着します。

#### エンジンの組立

1. ②⑮のシリンダーへ②⑭のシャフトを通し(接着しない)、②⑮と②⑯を接合。
2. ②⑮のシリンダーを②⑱へ接着し、②⑱を左エンジン・ナセルへ図のように接着。
3. ②⑭、②⑮、②⑯で右エンジンを組立て、②⑯のシリンダーを②⑰の右カウルフラップへ接着し、この②⑰を右エンジン・ナセルへ接着。
4. ②⑳のカウリングをエンジンへはめ込みます。接着しないでおく組立後も、エンジンを見ることが出来ます。
5. ②⑳のプロペラへ②㉓を接着、プロペラ シャフトへ差込みます。

※カウリング②⑳を接着しないときは、プロペラとシャフトも接合しないようにします。

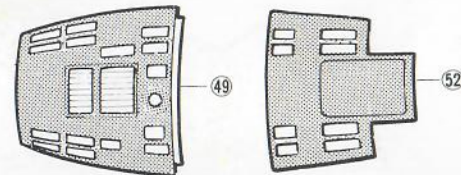
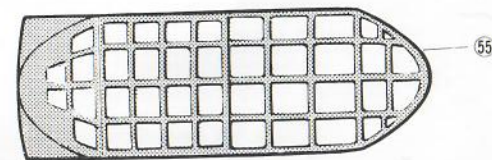
### 4 FINAL ASSEMBLY



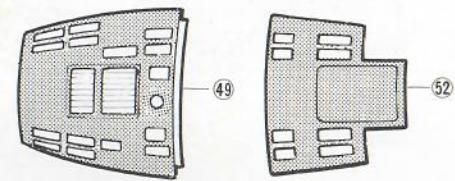
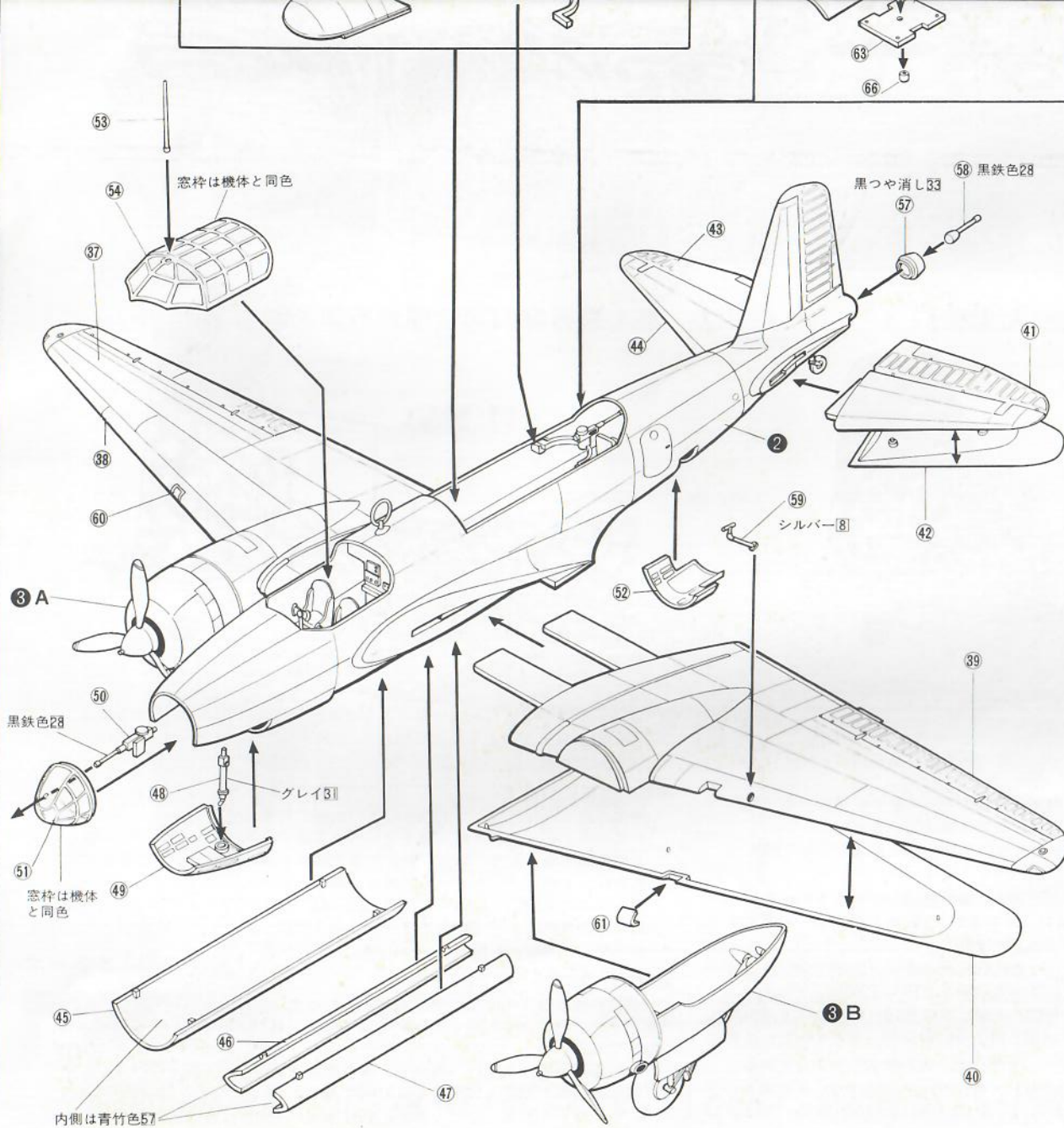
#### 仕上げ

図の指定の部分塗装します。

#### 胴体の仕上げ





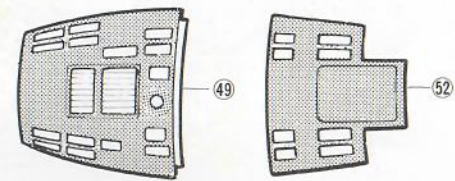
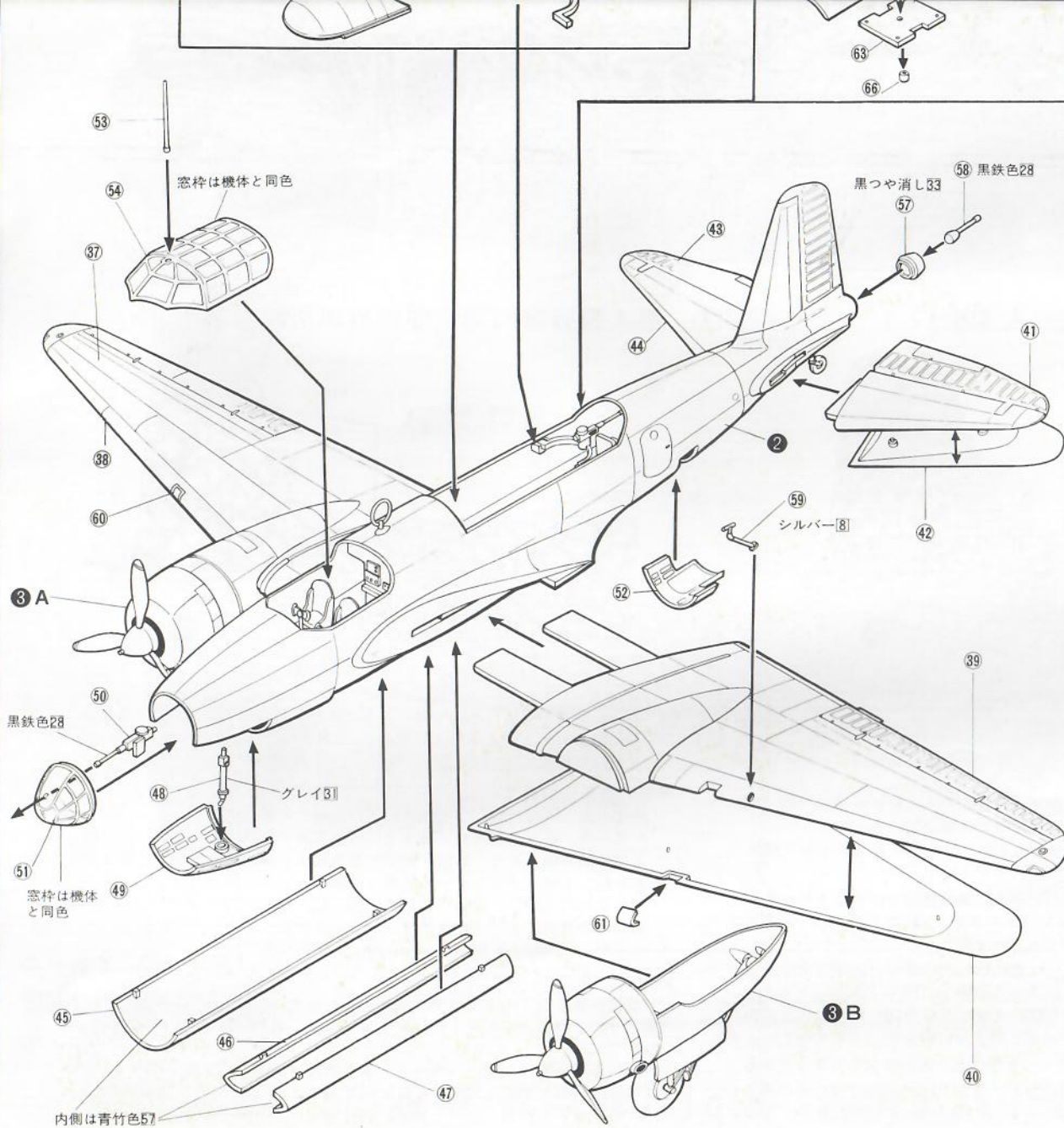


1. 透明部品49、50、52、54、55、67の塗装は上図のように窓の部分を残して機体と同色に塗装して下さい。
2. 50の機銃を51の機首風防の穴へ通して接着。
3. 48を49の穴へ差込んで接着、49を胴体へ接着して、51の機首風防を胴体と49へ接着。
4. 52を矢印のように胴体へ接着し、57を胴体尾部へ接着、58を57へ接着します。
5. 53のアンテナ柱を54へ接着し、54を胴体へ接着。
6. 爆弾倉扉は開閉どちらかの状態に組立るかを選び、閉のときは45を胴体へ接着。開のときは46と47の扉を胴体へ接着します。
7. この機体を初期型に作りたときはA図のように9の機銃を10へ接着し、10を6の矢印の溝へ接着します。56を矢印のように55へ接着して胴体6と接着。  
※後期型に作るときは9と10の部品は使用しません。
8. 後期型に作るときは、まづ62の裏側へ63を接着、65のピンを63の穴へ通し、66をピンの先へ接着。64の機関砲を65へ接着、67の溝へ機関砲を通して65と67を接着。組上った62を胴体へ接着します。

**翼の組立**

1. 37と38を接合して右主翼を作り胴体へ差込んで接着。
2. 39と40を接合して左主翼を作り胴体へ差込んで接着。59のビーター管と60、61のランディング・ライトを主翼へ接着します。
3. 41と42を接合して左水平尾翼を作り、43と44を接合して右水平尾翼を作って、それぞれ胴体へ接着。
4. 組立ててあるエンジン・ナセルを左右の主翼へ図のように接合すると組立は完了します。  
次は塗装説明図を参照して塗装仕上げをし、スライド・マークを貼りつけて下さい。





1. 透明部品49、50、52、54、55、67の塗装は上図のように窓の部分を残して機体と同色に塗装して下さい。
2. 50の機銃を51の機首風防の穴へ通して接着。
3. 48を49の穴へ差込んで接着、49を胴体へ接合して、51の機首風防を胴体と49へ接着。
4. 52を矢印のように胴体へ接着し、57を胴体尾部へ接着。58を57へ接着します。
5. 53のアンテナ柱を54へ接着し、54を胴体へ接合。
6. 爆弾倉扉は閉閉どちらかの状態に組立るかを選び、閉のときは45を胴体へ接着。開のときは46と47の扉を胴体へ接着します。
7. この機体を初期型に作りたときはA図のように9の機銃を10へ接着し、10を6の矢印の溝へ接着します。56を矢印のように55へ接着して胴体6と接合。  
※後期型に作るときは9と10の部品は使用しません。
8. 後期型に作るときは、まづ62の裏側へ63を接着、65のピンを63の穴へ通し、66をピンの先へ接着。64の機関砲を65へ接着、67の溝へ機関砲を通して65と67を接合。組上った62を胴体へ接着します。

**翼の組立**

1. 37と38を接合して右主翼を作り胴体へ差込んで接着。
2. 39と40を接合して左主翼を作り胴体へ差込んで接着。59のビーター管と60、61のランディング・ライトを主翼へ接着します。
3. 41と42を接合して左水平尾翼を作り、43と44を接合して右水平尾翼を作って、それぞれ胴体へ接合。
4. 組立ててあるエンジン・ナセルを左右の主翼へ図のように接合すると組立は完了します。  
次は塗装説明図を参照して塗装仕上げをし、スライド・マークを貼りつけて下さい。



